

「子育てながら“ボロンティア”
子育て世代の意見」



当時は男性が家事をしないのが普通だったんでよね。今まで作ってもらったものが「おにぎり」だけとは驚きです。今では、男性も何かしら家事をするのは当たり前。よく置くのは、食器洗い。私の夫の場合は、それに加えて子どものお風呂とかですかね。本当はもっと手伝ってほしいくらいですけれど、これぞれ得意不得意があるので仕方ないかな。専業主夫もお互いが十分納得していいのでは？



私の両親は共働きで、母は外で働き、父は自宅兼店舗で働いていました。そのため、家事・育児をやるのは主に父がやっていました。そんな父を見て育ったせいか、私自身も家事・育児は全く苦になりません。それより「苦になる」「苦にならない」といった発言自体が「そもそも間違っている」と書には言われます(笑)。

64歳
町会長
男性

新しい町会づくりのために

子どもたちにはいろいろな世界を知ってほしい

子育てについていえば、私自身は積極的に参加したとは言えません。家業を継いでからは、何かと地域活動のお手伝いをする機会が多く、大変忙しい



町会長になって

町会長は一期目を務めています。町内会の役員は約60人で、男女比は半々です。働いていたり、介護などで忙しい人もおり、常時活動している人はそのうち40人ほどでしょうか。

町会は事業部や青少年部、婦人部など、いろいろな部会から構成されています。ずっと以前、女性の参加は、女性部や福祉部といった一部に限られていました。活動の中でも、男性の役割、女性の役割は偏っていたように思います。

本来は、女性にもすべての役割に関わって欲しいと考えていましたので、現在は、いろいろな部会に参加してもらっています。これまで事業部は、ほぼ男性のみで構成されていましたが、今は女性の割合も高くなっています。また、女性だけが参加する女性部については、その役目を終え、今まで女性部が担っていた仕事も、男女が等しく分担していけばいいのではないのでしょうか。

固定観念をなくして柔軟に

また、正・副会長、総務、会計の三役の選定については、従来の固定観念をなくすように努めています。現在、副会長は4名おり、それぞれ町会の中の部会を担当してもらっています。

例えば、女性部でいえば、以前は女性の副会長に担当してもらおうのが通例でした。今はあえて男性の副会長に担当してもらっています。同じく、青年部は女性の副会長に担当してもらっています。異なった視点で見ることにより、お互いの気持ちも知ってもらいたいと考えています。

皆で楽しみながら活動したい

町会の役員には、自分たちの住む町をどのように作っていきたくのかをそれぞれ考え、活動として企画・立案していったほうがいいんです。それにはマンネリにならないように、ベテランに加え、女性・若い世代も含めた新たな役員が参加し、新しい風を吹き込むことも重要です。

町会の最も重要な目的は防災だと考えています。それには、地域の皆さんが積極的に関わって街づくりをしていくことが大切です。これからも楽しみながら活動をしていきたいと思っています。

「新しい町会づくりのために」

子育て世代の意見



地域社会の男女平等はまだ進んでいないのでよね。今、まさに変化しつつある時期なのだと思います。私の母も地域活動に参加するなかで、「なんで女性だけ女性部があるんだろう」とおっしゃったので、女性部をなくしていくことは賛成です。今まではあまり縁がなかったけれど、これからは地域にも目を向けてみようかな。



私が地域活動に参加して、女性だけがお茶くみをして、男性が会議をしていたら残念に思います。地域社会は、社会の縮図だから考えますので、子どもたちにも良い学習の場になると思います。

